

平成 29 年 6 月 3 日土曜日、秋田大学医学部付属病院医学系研究棟にて平成 29 年度乳房撮影技術研修会が開催されました。

初めに、機器更新について雄勝中央病院高橋麻冴子会員から報告がありました。機器の老朽化に伴い行われた機器更新について、選定から設置、稼働までの流れを紹介してもらいました。併せて、市立角館総合病院工藤瑠利子会員から施設紹介してもらいました。病院移転により新しい装置が設置されて稼働するまでを報告してもらいました。どちらの施設とも、患者さんへのプライバシーなどへの配慮がなされていて、今後、機器更新予定のある施設や、更新の予定がない施設でも、参考になる紹介でした。

続いて、「マンモグラフィにおけるモニタ読影のやり方」と題し、秋田大学大学院医学系研究科・医学部の石山公一先生よりご講演いただきました。モニタの配置の画像や操作の動線からフィルム読影の時の比較、臨床画像の読影、さらにはトモシンセシスまで幅広くお話しいただきました。トモシンセシスで見る構築の乱れ等、日ごろ目にする機会の少ない画像やたくさんの症例を供覧出来、大変有意義な講演でした。

その後、症例の画像を供覧し、読影のポイントについて学習しました。

最後に、秋田県総合保険事業団保健情報事業部ドック健診課の小松留美先生より、「人間ドックにおける乳房超音波検査について」、GEヘルスケア・ジャパン株式会社の下河辺雅寛先生より、「乳腺エコーの最新技術」と題し、ご講演いただきました。日頃の業務で携わることの少ない、けれども臨床で必要な場面の多い超音波について、基本的な話から最新技術まで、学ぶことが出来ました。

会員 27 名に加え、非会員 2 名、臨床検査技師さんも 5 名の参加があり、とても充実した内容になりました。「たくさんの症例を見ることができてよかった」、「わかりやすい内容だった」、「勉強になった」と、たくさん感想が寄せられました。

(記 平塚 美

由樹)

